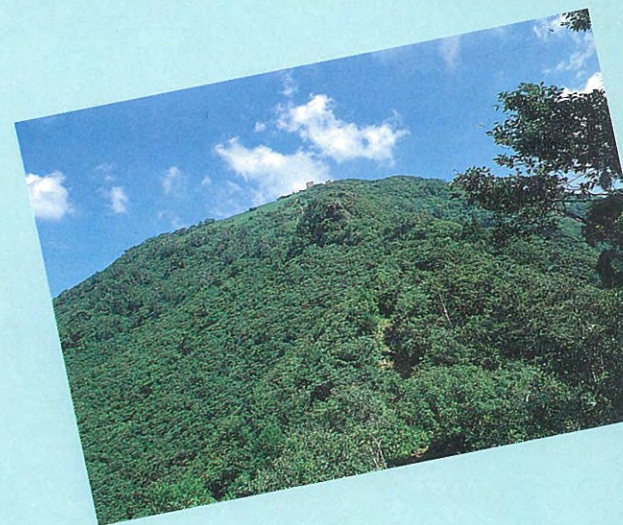
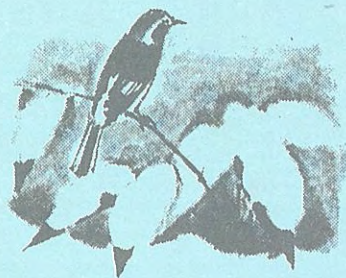


# 氷ノ山登山コース

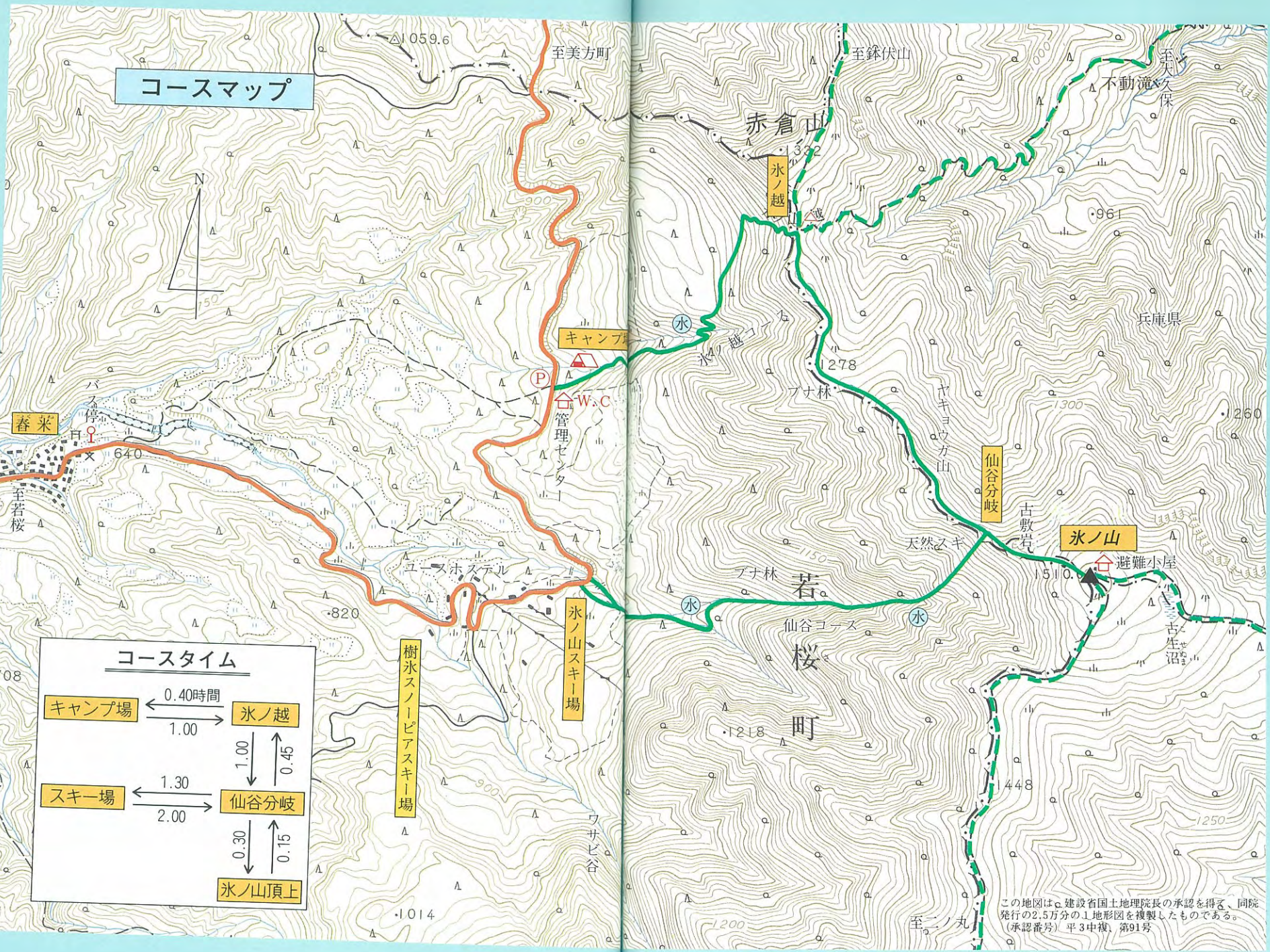


氷ノ山 (1,510m)は、大山に次いで中国地方で二番目に高い山で、氷ノ山 後山那岐山国定公園の主峰です。

「母なる森」とも呼ばれるブナの自然林や高山植物などの豊かな植生、大山火山帯に属する火山性の地形など変化に富んでいて、たんなる登山コースとしてだけでなく、自然観察コースとして素晴らしいところです。



コースマップ

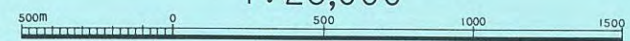


コースタイム

キャンプ場	← 0.40時間	氷ノ越
	1.00	↑
		0.45
スキー場	← 1.30	仙谷分岐
	2.00	↑
		0.15
		氷ノ山頂上

この地図は建設省国土地理院長の承認を得る、同院発行の2.5万分の1地形図を複製したものである。  
(承認番号) 平3中規、第91号

1:25,000



# 植物

「氷ノ山」は、標高1,510mで大山に次いで中国地方で2番目に高い山です。

ですから、ブナ林やいろいろな種類の高山性の植物が見られ、変化に富んだ登山コースとなっているばかりでなく、学術的にも貴重な山です。

登山道に沿った植生は次のとおりです。

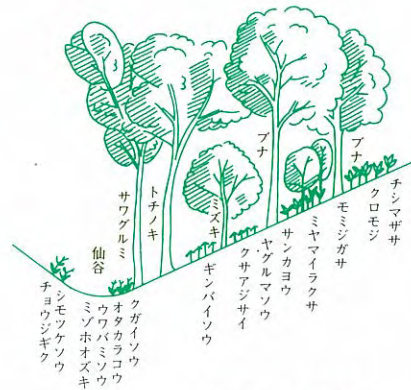


仙谷の自然林

## ●仙谷(下部)標高900~1,200m●

仙谷一帯の斜面は巨大なブナやトチノキなどの自然林です。全国的にブナ林の減少が問題になっていますが、氷ノ山のブナ林の大部分は鳥取県側に残っていて、非常に貴重なものです。

また、仙谷の谷筋は、湿り気が多く、部分的に日当たりも良いので高山性の植物が豊富です。



—仙谷ブナ林の構成—

- 高木層 ブナ、トチノキ、サワグルミ、ハクウンボク、ミズナラ、カツラ
- 亜高木層 ミズキ、ナナカマド、ヤマハンノキ、コバノトネリコ、イタヤカエデ
- 低木層 クロモジ、タニウツギ
- 草本層 ウワバミンソウ、ヒョウノセンカタバミ、オタカラコウ、ギンバイソウ、ミヤマイラクサ、サンカヨウ、モミジガサ、オオカニコウモリ、アキチョウジ、チョウジギク、クガイソウ、ホクリクネコノメソウ、シオガマガク、シモツケソウ、ヤマトリカブト、キバナアキギリ、センニンソウ、ソバナ、ツリフネソウ



ヨツバヒヨドリにウラギンヒョウモン (キク科、8・9月)



ヤマトリカブト(8・9月) (キンポウゲ科)

## ●仙谷(上部)標高1,200~1,400m●

仙谷の最後の水場を過ぎると急登して尾根筋の道になります。登るにつれて植物の様子がずい分変わってきます。

ブナに混じって、大きな天然スギがところどころにあらわれたり、クロモジを主体とした低木が多くなったり、また、林床は一面のチシマザサ(ネマガリダケ)に置き替っています。

ブナの根っこが階段状になっていて、急な坂道も登り易く、どんどん高度が上っていくので、植物の垂直分布がよく分ります。

- 高木層 ブナ、スギ
- 亜高木層 ハウチワカエデ、ムシカリ、リョウブ

- 低木層 クロモジ、ヒメアオキ、サワフタギ、ホツツジ、ハイイヌツゲ、エゾユズリハ、タムシバ
- 草本層 チシマザサ、ヒメモチ、イワカガミ、シオガマガク、エンレイソウ、ノギラン、ユキザサ、アキノキリンソウ、オオカニコウモリ



コミネカエデ

● 県境稜線～頂上 ●

頂上～氷ノ越にかけてのびる県境稜線の鳥取県側はブナの自然林、兵庫県側は一度伐採された跡に自然発生した若い二次林や、スギの植林地となっていて、林相のちがいが一目で分ります。

鳥取県側のブナ林も、標高1400mから上では、厳しい季節風や豪雪のため、丈が低く、わい生化しています。

標高1300mから上に見られるキャラボクや、ハイイヌガヤは、冬季の豪雪をあらわす指標植物です。

頂上の西側直下に古敷岩と呼ばれる岩峰があって、イワカガミ、コケモモ、イワキンバイなどの寒地性小型植物が観察できます。

頂上は広い平地状になっていて避難小屋の周辺には、登山者の靴にくっついて上ってきたオオバコが一面に繁茂しています。



古敷岩



頂上から県境稜線を望む

低木層 キャラボク、ハイイヌツゲ、クロソヨゴ、ハイイヌガヤ、ブナ、ナナカマド、リョウブ、ノリウツギ、シモツケ、ムシカリハウチワカエデ

草本層 ショウジョウバカマ、ノギラン、アカモノ、イワカガミ、イワキンバイ、オトギリソウ、アキノキリンソウ

こせぬま  
● 古生沼 ●

頂上から兵庫県側に3分ほど下ったところに古生沼があります。沼は小さなものですが、全体が高層湿層になっていて、モウセンゴケなどの北方系の湿原植物が生育しており、天然記念物に指定されています。

低木層 スギ(わい生)、ハイイヌツゲ

草本層 モウセンゴケ、ヒメミズゴケ、トキシソウ、ノギラン



モウセンゴケ



トキシソウ(7月)

● 氷ノ越 ●

氷ノ越(標高1200m)は、古くは因幡と但馬を結ぶ街道の峠で、今でも当時を物語るお地藏さんが

たたずんでいます。



氷ノ越

氷ノ越から赤倉山にかけては、一面に丈の高いチシマザサ(ネマガリダケ)が茂り、その中に点々とブナが残っていて、独特の山岳景観をつくっています。

氷ノ越から氷ノ山キャンプ場にかけての斜面は、スギの植林地になっていますが、まだ若いスギが山陰地方特有の湿った雪の重さで根元が大きく湾曲しています。



氷ノ越のブナ

●高原の植物●

氷ノ山スキー場からキャンプ場にかけての一带は、氷ノ山の懷に抱かれた広大な高原になっていて高冷地野菜栽培の畑や、ススキなどの草原が展開しています。



スキー場周辺



アキノキリンソウ  
(8~9月)



ツリガネニンジン  
(8~9月)



タマガワホトトギス(7~9月)



チゴユリ(4~5月)



ササユリ(6~7月)

動物

●氷ノ山の動物概要●

氷ノ山 後山那岐山国定公園の主峰である氷ノ山は高峰が連なり、渓谷も深くて、ふところの広い山系であるために、自然環境がきわめて変化に富んでおり、生息する動物も少なくありません。

哺乳類では、大山に分布していないツキノワグマ、イノシシ、ニホンザルが生息しています。天然記念物のヤマネをはじめ、珍しいモモンガ、ムササビの生息も知られています。

鳥類では、天然記念物のイヌワシをはじめ、ブナ林と密接な関係をもつヒガラ、コガラ、シジュウカラ等のカラ類が多く、頂上域に



コガラ

は、亜高山帯に分布するホシガラス、コマドリ、メボソムシクイや、日本特産のカヤクグリも見られます。

両生類では、樹上に卵のうを産みつけるモリアオガエル、溪流で美声で鳴くカジカガエルが見られます。尾をもつ仲間のハコネサンショウウオ、ブチサンショウウオも生息しています。

昆虫類では、蝶の仲間が多く見られ、特にブナ林域ではシジミチョウの仲間、スキー場付近ではタテハチョウの仲間のヒョウモン類が多く、南方系のアサギマダラも生息しています。その他、甲虫類のカミキリムシやクワガタムシの仲間も多く見られます。また、アカトンボの仲間は、個体数が非常に多いところです。



南方系のアサギマダラチョウ

## ●草原・林縁付近●

標高800~900mのスキー場付近のススキ草原から林縁域を中心とする動物相を紹介します。

この一帯は、鳥類の豊庫でウグイス、ヒバリ、ホオジロ、モズ、ヤマドリ、キジ等が多く、カッコウやホトトギスの声も聞かれます。

大型のクマタカ、オオタカなどをはじめ、ハリオアマツバメが飛び交ったり、溪流にはヤマセミ、アカショウビン、カワガラスが姿を見せることもあります。

昆虫類も種類が多く生息してお



ヤマセミ



ヤマアカガエル

り、特に蝶の姿をよく見かけます。

珍しい種類として、かつての氷河時代に日本列島と朝鮮半島が陸続きであったことを証拠づけるウスイロヒョウモンモドキ、氷河時代の残存種として有名なウスバシロチョウ、美しい色彩をもつアイノミドリシジミ、フジミドリシジミなどのゼフィルスもたくさん見られます。

その他、湿地帯には<sup>こぶし</sup>拳大の卵のうを地上に産みつけるシュレーゲルアオガエル、樹上に同様の<sup>らん</sup>卵のうを産みつけるモリアオガエルや、水中に産卵するヒキガエル、ヤマアカガエルなどを見かけることもあります。



ウスイロヒョウモンモドキ



ウスバシロチョウ

## ●ブナ林・尾根付近●

登山コースの仙谷~頂上~氷の越え~キャンプ場に至る道辺で見かける動物相を述べます。

登山道が林に入ると、サワグルミやトチノキの育つ溪流にミソサザイが絶えずさえずり、シジュウカラ、コガラ、ヒガラ、アオゲラ、アカゲラに接することができます。

溪流の石の下には、指に爪をもつハコネサンショウウオやいろいろな水生昆虫を見つけることもできます。

こしき岩を越すと、視界が開けてチシマザサの大群落が広がっていますが、夏期には、この一帯に



アキアカネ

避暑に来ているナツアカネやアキアカネの大群を目にすることができでしょう。耳をすますと、ジュウイチ、コルリ、メボソムシクイ、コマドリなどの亜高山帯の鳥の声を耳にすることもできます。

また、大山が模式産地となっている大型のカタツムリ、ダイセンニシキマイマイも生息しています。

氷ノ越え付近では、近くにイヌワシが休息する赤倉頭があるために、枯木に止まる姿を見ることもあります。イヌワシの捕食時間は日の出2~3時間ですが、運が良ければ飛翔を見ることもできます。



飛翔するイヌワシ

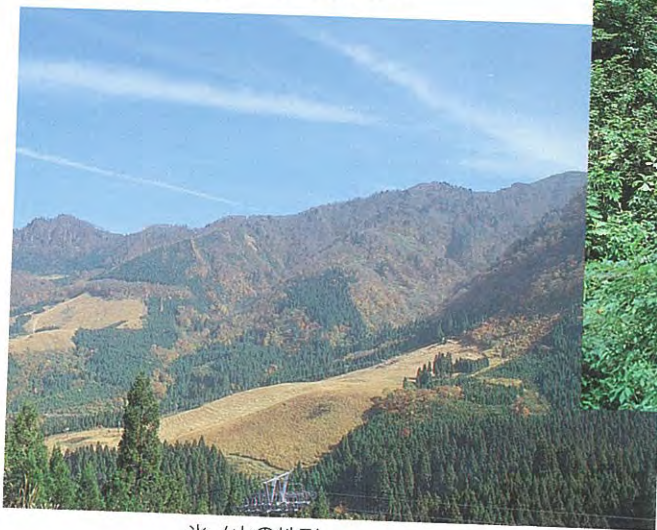


ダイセンニシキマイマイ

## 地形・地質

### ● 地形について ●

この地域は因幡山岳地帯と言われるように海拔1000m以上の山がたくさん連っています。目ざす氷ノ山（須賀ノ山ともいう）は、中国地方では大山に次ぐ山です。中国地方の山々は大山火山帯に含まれ、氷ノ山もその中の一つですが、大山が複式火山（主峰はトロイテ型）であるのに対し、円錐型ないし楕状（アスピーテ型）の火山体です。ただ、大山や扇ノ山と比べ形成時期が古く、元の地形が完全には残っていません。特に北半の崩壊は著しく、溶岩流も稜線に沿う程度です。南方は二の丸方面に



氷ノ山の地形

かけてのなだらかな地形が示すように、原面と思われる溶岩流の地形が認められます。

られます。

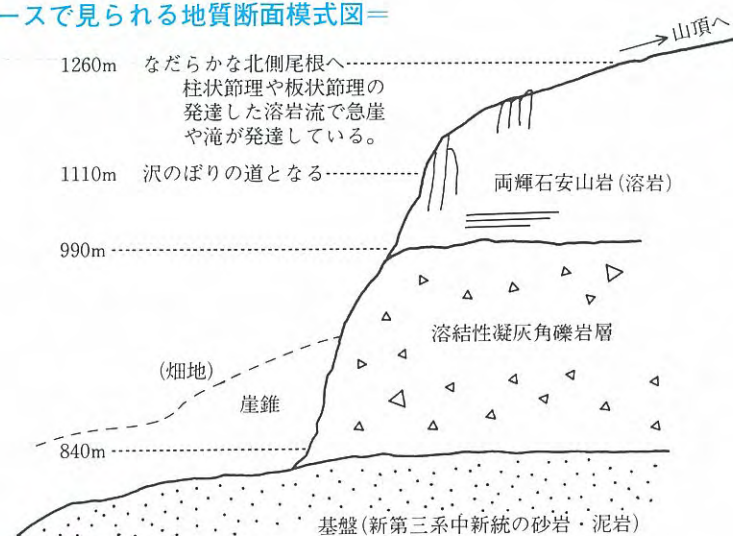
山頂南側には古生沼（湿原）があり、元の火口ともいわれています。

山頂からの眺望はすばらしく、晴天ならば中国山地はもとより、山陽・四国方面が見渡せ、眼下には北東に鉢伏高原、北西に若桜町東部の壮年期の峻険な地形、東方や南方に広い緩斜面の地形などの発達がよくわかります。



仙谷の滝

### ＝仙谷コースで見られる地質断面模式図＝



### ● 地質について ●

氷ノ山付近の地質を地質図で確かめながら、現地までの地質の概要をのべてみましょう。

国道29号線に沿って津ノ井・郡家付近までは丘陵が続きます。これは新第三紀中新世（約1500万年～2000万年前頃）の海成の地層で鳥取層群といいます。八東町に入ると山々も一段と高く、八東川流域の所々には河岸段丘が発達しています。山地は三郡変成岩で古生代末から中生代三畳紀（約2億数千万年前頃）の古い海成層が変成作用を受けた硬い岩石できています。若桜の三倉石もこの岩石の一種です。八東町東部付近には扇ノ山溶岩流が伸び、富枝の碎石場はこの岩石

です。

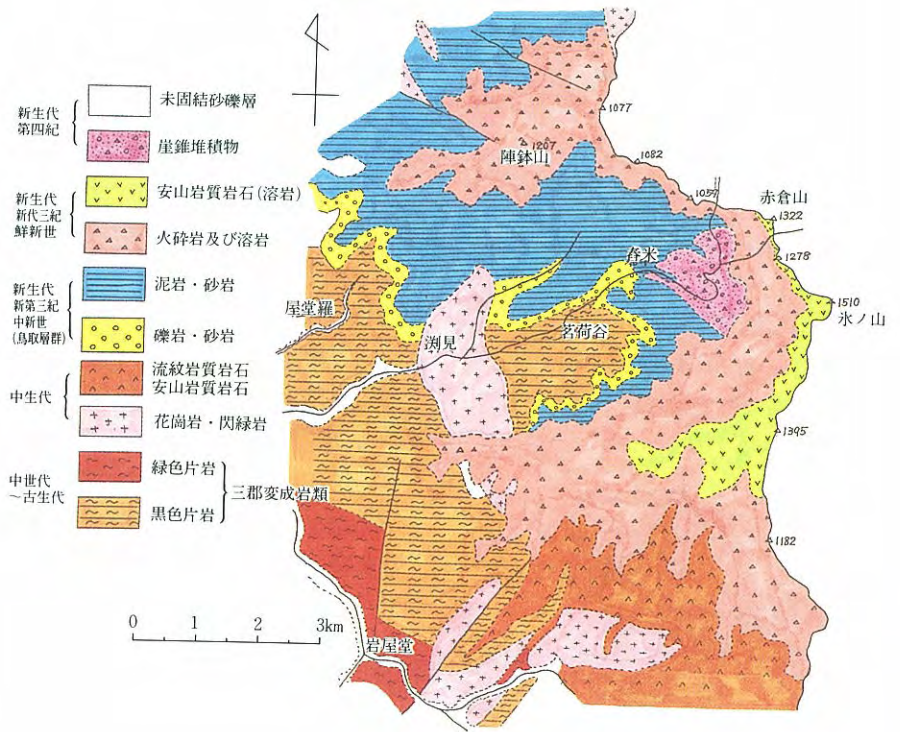
国道から離れ氷ノ山道路に入ると茗荷谷までは再び三郡変成岩ですが、春米付近から鳥取層群の地層が現われ、産出するピカリア・カキなどの化石は古くから知られるところです。氷ノ山登山道から山頂に至る山林の地質を断面図に示しました。氷ノ山の基盤は前述の変成岩や鳥取層群の地層ですが、氷ノ山は噴火による火山岩で、溶岩は両輝石安山岩といいます。その時期は時代の明確な地層や岩石との連続性が浸食によって断たれ、断定できないのですが、扇ノ山より古く第三紀鮮新世後期（数百万年前頃）の活動であったと推定されます。

# NATURE LAND 自然探訪

## 氷ノ山登山コース

登山紀行(9月上旬)

若桜町東部地質図



### 鳥取県東部のシンボリック存在

因幡山岳地帯の主峰「氷ノ山」(1,510m)は、大山に次いで中国地方で2番目に高い山で、氷ノ山後山那岐山国定公園の中心的な存在でもある。

若桜町の東端、兵庫県との県境

に位置するこの山は、その雄大なスケールや、ブナの原生林などの素晴らしい自然に恵まれている。

秋色のせまる鳥取県東部のシンボル「氷ノ山」を紹介しよう。

登山基地は、氷ノ山スキー場でおなじみの若桜町の春米(つくよね)である。登山口は、バスの終点からさらに町道を2km上がったところで、「仙谷コース」と表示された標識がある。

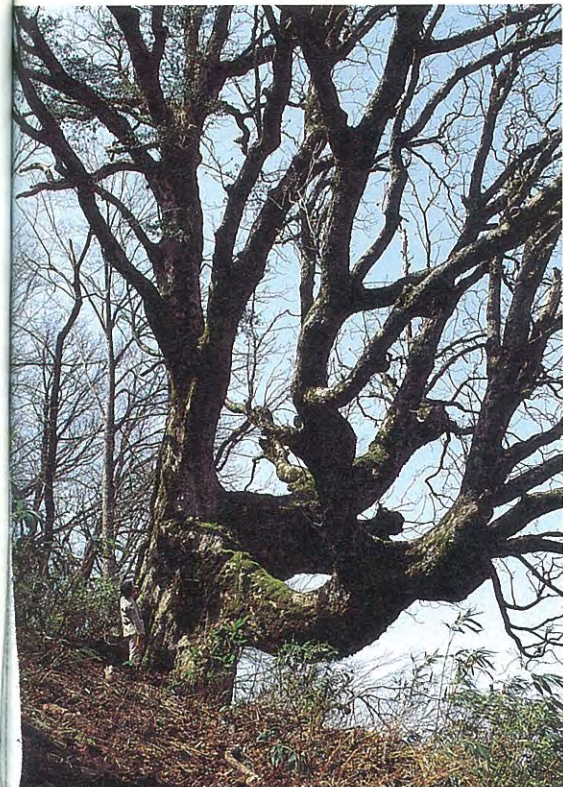
登山ルートは次頁のように、仙谷コースと氷ノ越コースがあるが、沢沿いで変化に富んだ仙谷コースを登り、稜(りょう)線沿いのなだらかな氷ノ越コースを下りのルートに選んでみた。

### 巨大なブナやトチノキが原生

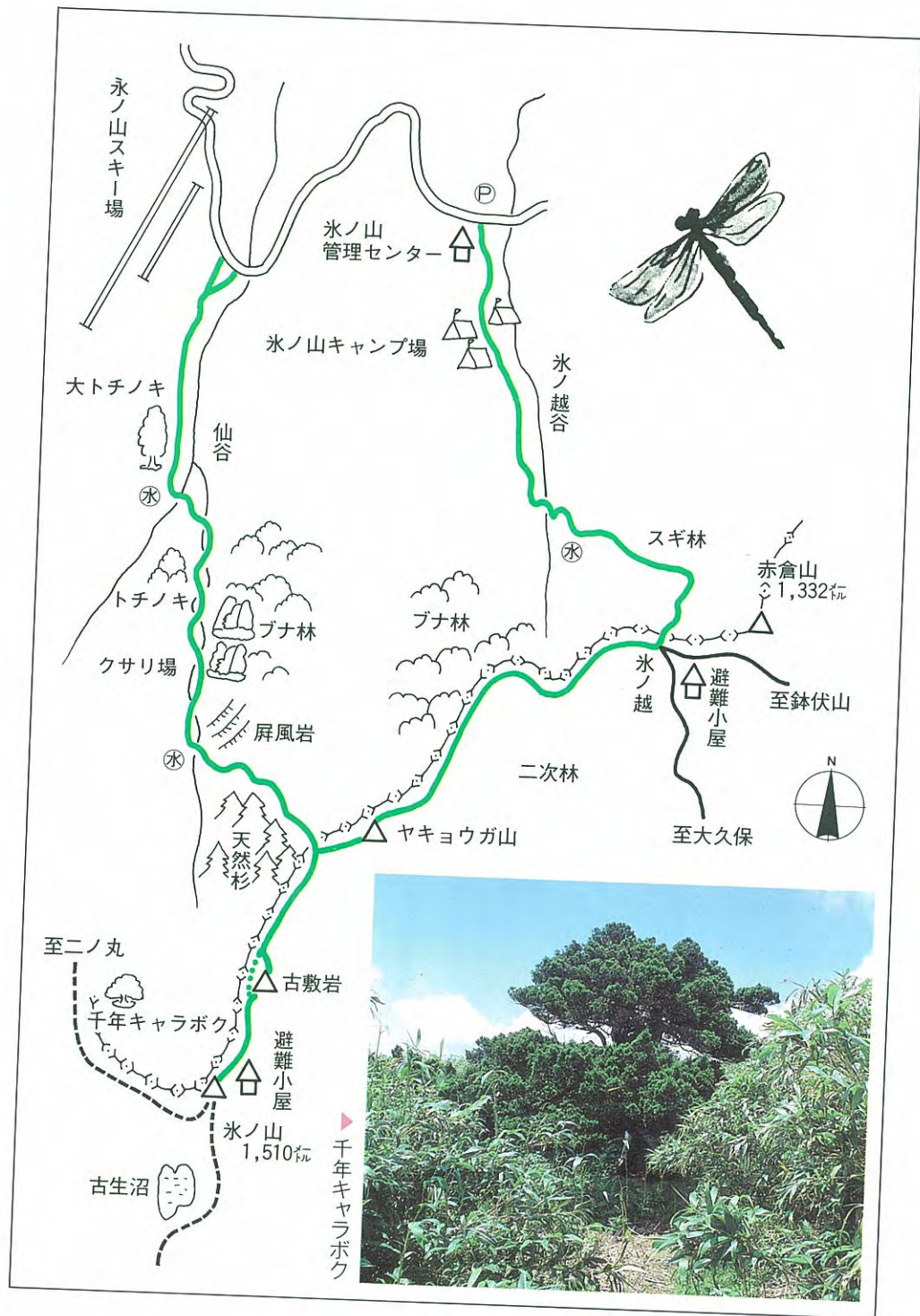
さて、標識に従って出発すると、最初はスキーリフトに沿った大根畑の中を登って行く。大根畑は今、収穫期を迎えているが、冬になるとアルパインコースのスキーゲレンデに様変わりする。

ここを過ぎると杉の造林地に入

◀トチノキの巨木(県内1位の太さ)







▲シオガマギク

る。樹齢60年以上はあるだろうか、沢筋のため生長が良く、なかなかの美林である。

仙谷の瀬音を聞きながら進むと約20分ほどで杉林は終わり、一変して直径1尺以上もある巨大なブナやトチノキなどの原生林に変わる。このブナ林はこれから頂上直下まで続いている。全国的に減少しつつあるブナ林が、氷ノ山にこれだけの規模で残されているのは貴重な財産である。ブナ林に入っすぐ右手の方にひと際大きいトチノキがある。地上1.3尺の位置の幹回りが8.1尺もあって、鳥取県で一番大きいトチノキとされているものだ。

やがて仙谷の支流を渡り、さらに進むと、出発点から40分ほどで仙谷に出る。ここからはほぼ谷に沿って、右に左に沢を渡りながら

登って行く。仙谷は植物の豊富なところで、初秋には、ツリフネソウ、キツリフネ、メタカラコウ、アキチョウジ、トリカブト、シシウド、チョウジギク、キバナアキギリ、シオガマギクなどが次から次へと花を咲かせていて目を楽しませてくれるので、急な登りも苦にならない。

仙谷に入って20分ほどすると左手に第一の滝が現れる。そのすぐ上に最初のクサリ場があって、岩は固いけれども湿っぽくて滑りやすいので気をつけよう。その上に第二の滝があり、この辺りが最後の水場となる。これからが胸突き八丁の急坂となるが、15分我慢して登りつめると、標高1,230尺の



▲メタカラコウ

展望地点に到着する。西側の眺望が開け、氷ノ山スキー場が眼下に広がる。風も吹き上げてくる場所なので一服しよう。

## 天空にそびえる 巨大な天然杉

道はこれより県境稜線まで尾根伝いになり、植生が今までの谷筋のものとはずいぶん違ってくる。ブナが大部分を占める林層の中に、ハウチワカエデ、コミネカエデ、クロモジ、リョウブ、ナナカマドなどが交じっている。ところどころに巨大な天然杉が天空にそびえている。道は急でも、ブナの根っこが縦横に這っていて階段状になっているので登りやすい。展望地点から25分ほどで県境稜線の分岐点に出る。

稜線道を頂上に向かうと、すぐに古敷岩と呼ばれている岩峰にぶつかる。直登もできるが、岩場があって危険なので、一般の人は正規のコースをまわったほうが安全だ。古敷岩のてっぺんは氷ノ山で一番眺めの良いところなので、頂上側から通じている小道を伝って行ってみよう。

さて、古敷岩まで来れば、そこから10分ほどで頂上に着く。



鉢伏スキー場

## 視界の良い日は 遠く大山も望む

標高1,510mの山頂はさすがに眺めが良い。眼下の春米の集落や氷ノ山スキー場、兵庫県側の鉢伏スキー場はもちろん、陣鉢山、扇ノ山、那岐山などの山並みが続き、視界が良い日には遠く大山も見えるという。頂上には、関宮町が近年建てた避難小屋があるので、天候の悪い日は助かる。

また、頂上から南に5分も下ったところに、氷ノ山の火口の跡だともいわれている古生沼と呼ばれ

勢詣での街道であった。峠には昔を語る古いお地藏さんがある。峠からは、標識に従って杉の造林地の中を下って行く。ところどころに昔の街道だったころの古い敷石や石積が残っている。

約20分も下ると氷ノ越谷の水場に着き、さらに20分ほど行くとキャンプ場のケビンが見えてくる。

キャンプ場は、新しいケビンが10棟オープンし、とても快適になった。11月の上旬まで営業しているので、登山やハイキングの基地として利用してみてもいいかも。

る湿原があって、モウセンゴケなどの湿原植物が見られる。

又、二ノ丸方向に少し下ったところに「千年キャラボク」と呼ばれている大きなキャラボクがある。

さて、頂上で弁当を食べ、ゆっくり休んだら下ることにしよう。頂上からは、来た道に戻り、県境稜線を氷ノ越目指して快適に下って行く。一帯は、鳥取県側がブナ林、兵庫県側が一度伐採された跡に自然発生した二次林や杉の造林地になっていて、対象的な林層をしている。

約40分下ると氷ノ越の峠に到着する。氷ノ越の道は、かつては伊

▼氷ノ越地藏



## 秋の花が彩る キャンプ場周辺

キャンプ場の周辺は高原になっていて、ススキの穂も出そろい、ツリガネニンジン、キンミズヒキ、ハギ、シオガマギク、オミナエシなど、高原を彩る秋の花がオンパレードといったところ。

登山道はキャンプ場までで、そこから先は舗装された道が町道に面した氷ノ山管理センターまで続いている。この管理センターがこのコースの終点である。



## 那岐山登山コース



那岐山(1,240 m)は、鳥取県東部の最南端に位置し、氷ノ山後山那岐山国定公園に指定されています。

中国山地の中でも孤立峰的な形をした山なので、展望が良く、ドウダンツツジなどの植生も特徴的で、日帰り登山・自然観察コースとしてすばらしいところです。

